

広陵町教育委員会だより

令和4年度 12月号 12月13日発行

広陵町教育委員会

北葛城郡広陵町南郷583-1

TEL0745-55-1001 文責・編集 植村



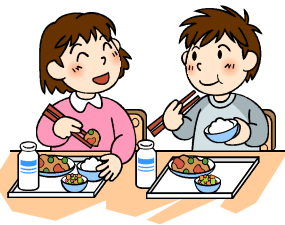
消(け)残りの 雪にあへ照る あしひきの 山橋(やまたちばな)を つとに摘み来な

12月の万葉集 巻20-4471 大伴家持
(消え残った白い雪に合わせて、照り輝やく、(あしひきの)山橋を、みやげに摘んで来たいものです。)

虐待防止推進月間で「189(いちはやく)」を上映！

師走の12月に入り、朝夕は一段と寒さが感じられる頃となりました。赤や黄色など、私たちの目を楽しませていた紅葉の季節も終わり、木枯らしに落ち葉が舞う季節へと変わってきました。学校・園では、2学期終業式の23日まで2学期における学習や保育のまとめ、期末懇談などが行われます。特に中学校3年生は、期末テストの結果を受けての進路決定に向けた大事な三者懇談が行われ、本人が志望する、私立や公立の高校が具体化されます。

新型コロナウイルス感染症も下げ止まりの状況から、再び感染者が増加し始め、第8波に入ってきた感があります。これまでと同様、学校・園においては、感染予防対策をしっかりと講じた上で、教育活動を進めてほしいと話しています。ただ、これまで給食の時間は黙食を基本とし、会話をする場合はマスクの着用を徹底することとされていましたが、11月29日付けの文部科学省からの事務連絡では、座席配置の工夫や適切な換気の確保等の措置を講じた上で、児童生徒の間に会話をすることも可能であるという通知が出ました。このことを受けて、上記に示した一定の配慮をした上で、子どもたちにとって、会話のある楽しい給食の時間になればと思っています。



ところで、先月の11月は「虐待防止推進月間」でした。児童相談所における児童虐待に関する相談対応件数が年々増加し、子どもたちの尊い命が虐待によって奪われる中、国は平成16年から毎年11月を「児童虐待防止推進月間」と位置づけ、児童虐待防止のための集中的な広報・啓発活動を行って社会の関心の喚起を図っています。



本町では、児童虐待防止の取組として、毎年講演会等を行っていましたが、昨年、一昨年は新型コロナウイルス感染症の影響で開催を中止し、今年は3年ぶりとなる「児童虐待防止研修

会」を11月25日(金)にかぐや姫ホールにて、映画「189(いちはやく)」を上映しました。本来であれば、山村町長があいさつされるところ、公務の関係で私があいさつさせていただきました。

あいさつの中で、上記に記したこの会の目的とともに、今から4年前に東京都目黒区で起こった虐待事件でが両親から虐待を受け、栄養失調によって死亡した当時5歳の船戸結愛ちゃんが書き残した両親への謝罪文、「ま、もうパパとママにいわれなくても……中略……もうおねがい ゆるして ゆるしてください おねがいします もうおなじことはしません ゆるして」を心を込めて読みながらこの事件の概要を話しました。また、この悲惨な事件がきっかけとなって虐待防止対策の一層の強化につながったことや今年の9月に発表された令和3年度の児童虐待の相談件数が過去最高の20万7,659件であったことなどに触れ、「最後にこの映画を見られた後、様々な想いというか感想を持たれると思います。その想いを胸に抱かれ、万が一、そのような場面に遭遇し、『虐待かも?』と思われたなら、いちはやく「189番」に電話してください。一本の電話で救われる子どもが必ずいます。」と話を終わりました。

その後、「189」が上映されました。その内容は、児童相談所虐待対策班で働く新人児童福祉司が主人公でしたが、なぜか結愛ちゃんの事件をヒントにつくられているのではないかと思います。背景は似通っていたように思います。場面場面で、なぜこの親はこのような理不尽なことを子どもに強いるのか、可愛くないのかなど、考えられない対応に怒りを覚えるとともに、これら悲惨な状況をなぜ改善できないのかといった激しい感情がわき上がり、何度も何度も涙してしまいました。



現在も子どもを死に追いやる悲惨な虐待事件が後を絶たない状況です。とにかく、虐待を繰り返す親への心理的支援とともに、私たち大人が「地域の宝物」である子ども一人一人のかけがえのない命をしっかりと守ってあげること、そして教育の主人公である子どもたちのために、溢れる愛情を注ぎ込んであげることが一人でも多くの子どもを児童虐待から救ってあげられることにつながると思います。

今月の一言

マハトマ・ガンディー

インド独立の指導者(1869~1948)

束縛があるからこそ、私は飛べるのだ。
悲しみがあるからこそ、私は高く舞い上がれるのだ。
逆境があるからこそ、私は走れるのだ。
涙があるからこそ、私は前に進めるのだ。

人は逆境につきあたるときにこそ本当の強さを発揮するものです。制限があるからこそ、豊かな発想ができるものだと思います。

教育委員会関係団体の取組

東小、広陵中学校のトイレが完成！

7月から始められていた東小学校及び広陵中学校のトイレ改修工事が東小学校は10月末に、広陵中学校は11月末に終わりました。東小学校は南棟の1階から3階までのトイレを、広陵中学校は南棟の1階から4階までのトイレを改修し、これまでのトイレの印象であった、「きたない」「暗い」「くさい」を払拭する、明るくて清潔感のあるトイレに変貌しました。子どもたちからは、「広くなったし、明るくて、とてもきれいで気持ちいい!」とピカピカになったトイレを使ってとても喜んでいました。特に、広陵中学校の1階トイレは、「みんなのトイレ」と称してジェンダー平等を意識した多目的トイレとして新たに設置させていただきました。

本町教育委員会としては、これら2校のトイレ改修を終え、洋式化率としては、7校すべての小中学校で、7割以上の率を達成することができました。



東小学校のトイレ



広陵中学校のトイレ



広陵中学校のみんなのトイレ

真美ヶ丘第一小学校で環境教育

11月22日(火)に、4年生を対象に環境教育の出前授業が行われました。町の環境政策課とNPO法人、奈良ストップ温暖化の会「NASO」の方々にゲストティーチャーとして授業をしていただきました。

日本は、2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、カーボンニュートラルを目指すことを宣言しました。そのことを受けて、広陵町でも脱炭素ビジョンを策定し、その三本柱の一つである「快適で省エネなライフスタイル」の実現に向けて、私たちがくらしの中でできる、かしこくエネルギーをつかう省エネ、自然エネルギーをつかう創エネなどについて教えていただきました。

まずはじめに、「どちらがエコでしょう」クイズで、水筒とペットボトルを子どもたちに示しながら、「どちらがエコだろうか？」また「白熱電灯とLEDでは？」と問いかけられ、子どもたちは「水筒」「LED」と答える中で、「今、地球の環境はどうなっているの？」の問いかけに対して、子どもたちの多くが積極的に答えていました。また、気候変動によりヒマラヤの氷河が溶けたり、珊瑚礁が死んだりしているのは「地球温暖化」が原因であるということも教えてもらおうと同時に「地球温暖化の原因は？」という



問いかけには、即座に「二酸化炭素」「CO2」という答えが返ってきました。なぜ、CO2が増えると温暖化になるのかを、地球儀に布団をかぶせていくことで視覚的に見せてもらい子どもたちの理解が進んだように思いました。

その後、CO2を出さない発電の方法として、うちわで風力発電を体験したり、もったいないばあさんのクイズで、徒歩・自転車・電車・バス・飛行機・自動車で一人当たりのCO2排出が一番少ない行き方としてはどれかなど、省エネとして今日から何ができるのかを真剣に考えていました。そして、最後には「わたしの環境宣言」として、「使わない部屋の電気を消す」「見ていないテレビは消す」「ゲームの時間を減らす」「自動車に乗らないで自転車で出かける」など今日から自分ができるエコを配られた環境宣言カードに書いていました。



フランス総領事イルマンさんの講演会が！

12月8日(木)の午後から、在京都フランス総領事のジュール・イルマンさん、秘書課の北川さん、研修生のヨハンさんが、山村町長に表敬訪問された後、真美ヶ丘中学校の2年生を対象にイルマンさんの「びっくり・フランス～皆さんのご存じないフランスをご紹介します～」と題した講演会がありました。

この講演会が実現した背景には、近畿経済産業局が地域ブランドの海外販路開拓に向けた取組として、在京都フランス総領事館との連携事業でマルシェに出品する関西の地域ブランドの一つに「広陵くつした」を山村町長が紹介されたのを機にイルマンさんと歓談されたことがきっかけでした。

イルマンさんは日本に12年間もおられ、とても堪能な日本語で、パワーポイントによりフランスの文化や歴史、教育制度などを話していただきました。

その後、質疑応答の時間では、「フランスでは日曜日は店が休みだと聞くがみんな何をして過ごしているのか」「日本の一番の魅力は何か」など10以上の質問に丁寧に答えていただきました。

ある生徒はイルマンさんに「フランス語を話してください」と要望して、会場が爆笑の渦と化した場面もありました。イルマンさんの人柄の良さがフレンドリーな雰囲気となっていて、生徒たちだけでなく先生方や私たちにとっても、とても有意義なひとときだったと思います。

最後に、講演のお礼にと、体育館での2年生全員による「ふるさと」の合唱にイルマンさんは大感激しておられました。生徒たちにとって、この講演でフランスがとても身近に感じられ、留学したいと考える子もいたのではと思えるほどのすばらしい講演でした。

